

第7期横浜市子ども・子育て会議 第6回保育・教育部会 第35期横浜市児童福祉審議会 第5回保育部会 合同部会 公開議事会議録	
日 時	令和7年10月31日(金) 18時00分～19時15分
開 催 場 所	市役所18階 みなと6・7会議室
出 席 者	石井部会長、稲田委員、大澤委員、大庭委員、尾木委員、斉田委員、清水委員、高杉委員、森委員、山瀬副部会長
欠 席 者	なし
開 催 形 態	公開(一部非公開)
議 題	<p>報告<公開案件></p> <p>【子ども・子育て会議】</p> <p>(1) こども、みんなが主役!よこはまわくわくプランの点検・評価方法について</p> <p>議事<非公開案件></p> <p>【児童福祉審議会】</p> <p>(2) 小規模保育事業の認可及び補助金交付先法人の審査について</p>
<p>石井部会長</p> <p>事務局</p> <p>石井部会長</p> <p>事務局</p>	<p>報告(1) こども、みんなが主役!よこはまわくわくプランの点検・評価方法について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>資料に沿って説明</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、ただいまの事務局の説明について、質問や意見がございましたらお願いいたします。</p> <p>SABCというと大学の評価を思い出しますが、大学の学生の評価から見ると結構厳しめな感じで、下2つが駄目なのだなというのはよく分かるのですが、BとCのところなのですが、Bはアンケートとかインタビューで評価することも加えるということで、恐らく実績値とアンケートみたいな利用者の意見と2本立てで今回評価するということであると、Bは、実績値も低いのですがアンケート的にはまあまあよかった、ニーズはあるみたいなのかなと勝手に解釈したのですが、そんな感じでいいのですか。Cのほうは、実績値も低いし、アンケートを取ったら評判も低いのかなということなのです。</p> <p>ありがとうございます。我々として一番まず思っていたのは、有効性を評価するに当たって、客観的なものに基づいてきちんとやっていくところが前提としてあって、丸がついているのは、有効性を判断する上で客観的な根拠を何かしらきちんと取った上で高いと判断している。丸がついていないものは、客観的なデータとかは取れては</p>

	石井部会長	<p>いるんですけれども、まだ有効性改善の余地があるということで考えておりましたので、BとCと言っていたいただいたイメージとは少し違うかなと思います。</p> <p>その認識が合っていたとしたら、9ページに具体例があるんですけれども、ここは2はCとなっているのですが、「〇〇が原因となり、当初想定していた実績値には届いていない。ただし、利用者や地域から本取組を求める声も多い」と書いてあるので、これだとBになるのかなと思うのですが僕の認識が違いますか。つまり、実績値は低いのだけれどもニーズはあるみたいな書かれ方をしているので、評価は、進捗状況としてはBじゃないかと思うのですが。</p>
	事務局	<p>進捗状況につきましては、計画策定時に立てている目標値がありまして、そこに対するパーセンテージで自動的に測るものになります。</p>
	石井部会長	<p>なるほど。つまりCは分かるのですけれども、Bが厳しくて分かりづらい。前、言わなかったけれども、今改めて見ると、向上させることができたとは言えない、だけれども何かがあるからCと違うのかなと思ったんですけれども。説明を受けまして理解しました。</p> <p>ほかにいかがでしょうか。</p>
	稲田委員	<p>すごくすてきな提案をありがとうございます。その中で、いろいろと質問してみたいなところがあるのですが、まず1点だけなのですが、特に重点テーマⅡ「子育て家庭が実感できる『ゆとり』を生み出す」とあるんですけれども、ここだけを追求することはもちろんないと思うんですが、そこだけすごく狭く見ると、ある意味、こどもを犠牲に親がゆとりをつくるみたいなことでも達成できるような話にもなりかねないテーマかなと思っていて、それを支えるのが重点テーマⅠなんだという話なのかもしれないですが、そういった関係性を改めて教えていただけますでしょうか。</p>
	事務局	<p>あくまで重点テーマというのは基本施策1から9それぞれの、生まれる前から始まってずっと支援していく子育て施策全体を包含するような形で、今回、新しく重点テーマⅠと重点テーマⅡをつくりました。おっしゃるとおり、重点テーマⅡというのは、保護者の方にゆとりを生み出す部分にフォーカスしてそういう指標となっておりますし、重点テーマⅠは、こどもにフォーカスをして、こどものウェルビーイングに着目しています。どちらかというわけではなく、当然両方とも大事で、だからこそ両方とも重点テーマで、両方ともそれぞれしっかり点検・評価してPDCAを回していく、そういう趣旨でございます。</p>
	稲田委員	<p>ありがとうございます。よく分かりました。</p> <p>そこと併せてなんですけれども、例えば重点テーマⅠ、Ⅱの表とはまた別に最後の9ページの表ができるという理解なんですけれども、</p>

		<p>そのときに、重点テーマⅠとⅡでどういう評価を受けているかによって、9ページで出てくる有効性の表に跳ね返るみたいな理解で合っていますか。</p> <p>事務局 基本施策の点検・評価は、それぞれの指標、あるいはそれぞれの事業に対して一つ一つ、まず進捗状況が目標に対して80%なのか100%なのか120%なのか、そういうところで見っていきます。重点テーマは重点テーマでそれぞれの指標がありますので、それぞれ個別に見っていきます。</p> <p>稲田委員 私の聞き方が悪かったと思いますけれども、例えば重点テーマⅡの1の時間的負担感が軽減されていると思う人の割合みたいな指標がいまいちであった場合に、その時間的負担感を軽減するための施策の有効性がややネガティブに働くみたいなことがあるのかなと思ったんですが、そういうわけではないということですか。</p> <p>事務局 確かに、同じ指標を使っていれば、おっしゃるとおり、当然ほかの関連する指標のところでも、影響するということにはなり得るかなと思います。</p> <p>稲田委員 よく分かりました。ありがとうございます。</p> <p>清水委員 ご説明ありがとうございます。こども、みんなが主役！という形なので、こどもを評価する何かいい作戦がないかと思って伺っていました。施策を打ったときの利用者の自己肯定感が高まったと感じた割合というのは、どなたが見てという感じでイメージされているのでしょうか。先ほどの説明では、所管課だけじゃなくて、アンケートとかインタビュー、調査等を通してとおっしゃっていたので、それを全体的にとということでしょうか。</p> <p>事務局 重点テーマ1の「利用者の自己肯定感が高まったと感じた割合」について言えば、青少年の地域活動拠点を使っているこどもたちのアンケートを取って、そのこどもたちが、自己肯定感が高まったと感じた比率がどうかというので見ているということで、それぞれの事業に沿ってやり方はいろいろ、利用者のアンケートだったり、保護者のアンケートもあると思います。しかし、基本的には、こどもに聞けるものはこどもに聞くというのが今まさに我々も進めているところなので、こどもに聞いて、こどもがどう実感したか、こどもがどう変わったかというのが測れるのが当然優先で、それができなければ、保護者であったり、支援者の皆様の意見であったりという形かなというふうに思っています。</p> <p>清水委員 事業所の人間として見たこどもの評価と、保護者から見たこどもの評価は違う視点だと思うんです。コロナ禍を経て、自殺者全体は減ったけれども、生徒児童の自殺者は増えているというのも、もっとこど</p>
--	--	--

		<p>もに負担がかかる世の中になっていっちゃうのかなという不安が正直あるんですね。不安定な子が増えたとはいえ、預かり保育を利用する家庭はどんどん多くなってきている。そういうところも指標として評価できていけば、より子どもも主役になっていく形になるのかなと思ったので、そんなところも検討していただけるとありがたいなと思います。</p> <p>事務局 指標については、一旦わくわくプランという形で取りまとめて皆様に御議論いただいたものですので、来年度以降、この指標に基づいてそれぞれの部会で、点検・評価について議論させていただきたいと思います。例えばその中で、こういう評価をしているけれども、この事業にはこういう課題があるということをいただいたり、それをまた事業に活かしていったりという形で、最初のたたき台を我々がまずつくって、皆様と議論をして確定していく作業をしていければと思います。</p> <p>尾木委員 この有効性のところに関しては、客観的な根拠に基づいて有効性が測れていない場合はアスタリスクをつけるというのはいいと思いました。</p> <p>私は、いつもこういう表を見せていただくときに思うのは、実績が各年度ごとに出てきますけれども、その年度の評価がどうだったかというのはいつも見えない状態でこういう表を見るので、できればここを2段にして、下に進捗状況とか有効性の昨年度の判断が載っていくように見えてくると、同じくらいの伸び具合で、去年はこうだったとか、この年にすごく飛躍的に事業量が増えているとか、そういうことが確認できると思っていて、この実績のところを2段にして、下に毎年度の進捗状況、有効性の評価というのをに入れていただけるとすごく分かりやすいなと思いました。</p> <p>事務局 おっしゃっていただいたとおりかなと思いますので、そのあたりにつきましては、私どものほうでもきちんと御意見として受け止めさせていただいて、対応できるように検討していきたいと思います。ありがとうございます。</p> <p>稲田委員 私の中では清水委員の先ほどの話とも少しつながる話ではあるのですがけれども、有効性の評価基準で、こどもの意見をどう見ていくのかみたいな話の中で、①②③とあると、①、③あたりがこどもの声を拾った上で評価をする項目になってくるのかなと理解しています。</p> <p>ただ、こどもの意見を聞くというのは、言葉で言うとは簡単そうですがけれども、実際問題、非常に難しい課題がある中で、うまく声を拾えなかった場合に、有効性の評価のところ、どういうふうにそれが評価されていくというのか、映し出されていくのか、そしてそれがこの表のところ、どういうふうに記載されていくのかというあたりを教えて</p>
--	--	--

	事務局	<p>いただけますでしょうか。</p> <p>ありがとうございます。この評価基準を考えさせていただくときに、最初お話しさせていただいた、やはりアウトカムベースで測れるようにしたいというのがありまして、各事業所管課が設定している課題があると思うので、その課題解決への貢献度というところをまず考えた次第です。</p> <p>ただ、課題解決というのはなかなか時間がかかるものであったり、やっぱりそのプロセスとか質を見ていくことも有効性を測る上では必要なと思っております、そういう意味で、まず利用者・対象者の行動変容というところは、例えばまだ社会課題の解決には至っていないですけれども、対象となる利用者とか対象者の方の、実際にはもうこういうふうになってきたというお声が出ていけば、その方向性としては間違っていないということで有効性の評価が測れるのかなと考えてこういう形としたところです。</p> <p>今おっしゃっていただいたように、できればそういうこどもの意見については、自分たちが施策を打つ上で、課題解決に向けてきちんと正しい方向に向かっているかというところで生かしていきたい部分かなと思っておりますので、それがなかなか聞き取れなかったときには、米印などをつけて、今後こういうことを検討していきたいというようなことを書くようになるのかなと。事業所管課のほうとは、そういった部分を細かく議論していきたいと考えてございます。そこが測れるようになるのが一番かと。最初、米印がついていたとしても、この5か年の中で変わっていくことができればと考えています。</p>
	稲田委員	<p>でも、こどもの意見を聞けなかったから米印にされてしまうのも大変かわいそうだなという気持ちもなくはないですが、よく分かりました。ありがとうございます。</p>
	森委員	<p>御説明ありがとうございます。評価するに当たってこどものアンケートを実施していくということで、以前にも申し上げましたが、障害児の場合、とても難しいなというふうに思っています。特にアウトカムで出ているような「将来の夢を持っていますか」とか「自分のことが好きですか」とかは、障害ゆえに、その部分が数値として現れない可能性がとても高いなと思っていて、特に小学校高学年から中学生ぐらいは、周りの子が当たり前にできることが自分にはできない、それが何でなのかと、とても悩む時期なので、ここの部分を例えば丁寧に誰が聞くのか。</p> <p>先ほど清水先生もおっしゃっていましたが、保護者から見るこどもと本人が考えていることは全然違うので、それは特に障害のある子の場合はそうだなと私は感じていて、その辺は、例えば今後、こ</p>

		<p>の評価をするに当たってどうやってアンケートを取っていくのか、障害のある子にもどうやって取っていくのかというのは多分考えていただけていただけのものと思うんですけども、例えば保護者じゃなくて、計画相談がついている子なら計画相談の支援員さんが聞き取るのかとか、学校の先生のほうがいいのかとか、それは誰がどう取り組めばいいかというのは、今後しっかり考えていかないといけないかなと思っています。</p> <p>来月、ちょうど健康福祉局のほうで障害者プランの聞き取りの検討会を計画されていて、当会からもこどもが2人出るのでですけども、最初、10歳未満の子も本人を出してくれと言われて、申し訳ないのだけどもそれはちょっと難しいですとお断りして、その部分の年代の子は保護者が出ますと言ったんですけども、特に障害者プランとかの聞き取りだと、障害ゆえの困り感をまだ障害受容が済んでいない子に話させるのも難しいですし、じゃ、保護者と同席してください、本人を連れてきてくださいと言われてたんですけども、保護者も、本人がいる前で障害を理由とする困り感を話すのもちょっと難しいなと思っていますので、障害のある子の意見を聞くということは大変難しいと思いますので、これから一緒に考えていただきたいなと思います。よろしくをお願いします。</p> <p>今おっしゃっていただいたのは非常に重要な点だと思います。各事業につきまして、事業所管課と、それぞれの一つ一つの事業についてどのように評価をしていくべきか、中にはまだアンケートや調査などを行っていない事業もございますので、どのような形で測っていくのが適切なのか、いいのかというのは丁寧に議論をしていきたいと思っていますので、今いただいた御意見も必ずお伝えするようにいたします。ありがとうございます。</p> <p>9ページの今度の備考欄なんですけれども、備考欄に書くことは2種類あって、進捗状況に関する理由の説明と、有効性の評価に関する理由の説明と2つ書くんですけども、1つにまとめて1文で書いていらっしゃるんで、どちらに対するものなのかが、拝見したときにちょっと分かりにくい。例文なのですが、1のほうは有効性が丸で進捗状況はSなので、1のほうに書いてある文章は有効性に関する説明文になって、2のほうに書いてあるのはCと米印なので、こちらのほうは2つの内容に関して、有効性と進捗状況に関する記述になるんですけども、同じように見えてしまうので、2つの内容に書くんだったら、どっちにどういう内容なのかを分けて書いたほうが、振り返りとしてもよいかと思いますし、拝見したときも分かりやすいかなと思いました。</p>
	事務局	
	山瀬委員	

あと、2つの文章を比べたときに、これは例なのでそこは言ってもしょうがないなと思ったりもするのですけれども、上に対する書きぶりと下に対する書きぶりがほぼ同じなので、ますます同じに見えてくるのでいる分かりづらい。下のほうは米印がついているのですけれども、「利用者や地域から本取組を求める声も多いため」と言っちゃったら、この取組で言っている客観的な評価が入っちゃっているんで、そうしたら、これは米印じゃなかったんじゃないみたいな感じにもなってくるので、客観的な評価とは何を指しているのか、外から聞けばよいのか。

留意事項に書いてあることだと、要するに、所管で内的なもの、行政に関わる方、市役所の方が評価したら主観的で、外の方、利用者の方とか関係団体とか市役所外の方が評価したものを客観的と呼んでいるのか。それとも、客観的というのは恣意的な数字ではないものを客観的と呼んでいらっしゃるのか。説明の中にも2通りの文脈で客観的という言葉が使われているので、ここをちゃんと問うておかないと、外部の意見を求めても、やり方次第ではすごく恣意的なものになってしまいますので、客観性をどう担保して何を見るのか。

中の意見だからといって必ずしも評価から排除するというものではないかと思えます。なので「主観的評価だけではなく」にされているのだと思えます。評価ではなくではなくて「だけではなく」にされているかなと思うので、このあたりの取扱いを、市役所の中の御意見をどんなふうに客観的に捉えて反映していく指標として活用するのか、外の意見をどう捉えて反映していくのかということころは、評価の流れの中で大切にされたほうがよいのかなと、お話を伺っていて思いました。

さらに、SとかAとか、すごくいい感じがするのですけれども、SとかAばかりを追い求める時代でもないのかなという気がします。今回のプラン自体の御説明をいただいたときにウェルビーイングという言葉が出てきて、大庭先生が、ウェルビーイングは、いいものをどんどん求めていくというよりは、現状を大切にすることとかも含めて求めていくような概念だとお話をなさったのが私はすごく印象に残っていて、あの後、学生ともウェルビーイングについて語り合いました。

考えてみると、あまり大人の側が、常にすごくいいものであらねばならず……。横浜市に課されているプレッシャーは分かるんです。こういうのを発表したらいろんなところから報道されちゃうし、課されているプレッシャーだったり、世の中が求めている期待感も分かるのですけれども、常によりよいものであらねばならぬという気持ちで大人の側がいたら、それは子どもたちはもっと苦しくなるよなというよ

		<p>うな、先ほどの自殺のお話とかもですけども、そう思うと、あまり常にSとかAとかでなきゃならないというわけでもないのかなと思うので、評価は、今ある状況を見つめて、じゃ、次はどうしようかと考える材料だということに帰ると、それが適切に行われて、そこから何かやってきたことが確認できる、それで次を考えるということが大切かなと思います。あまりいいものを出さなきゃみたいなのはちょっと違うのか、もうまさに今のウェルビーイングからそぐわなくなっちゃうし、そういう中ではこどももつらいとか、大変じゃないかなと思いますので、考え方とかつくり方というのは、少し御検討いただくとよいのかなと思いました。すみません、感想です。</p>
	事務局	<p>ありがとうございました。まず、1点目にいただいた1つにすると分かりにくいという部分につきましては、本当に御指摘のとおりかと思っております、ほかの部会でも同じような意見をいただいているところでございます。こちらについては、表現を工夫していきたいと思えます。</p> <p>2点目につきましては、あくまでも例ではあるんですけども、その書きぶりがというところで、客観性の担保とか、そういったところのお話をいただいたかと思うんですけども、私どもとして、やはり客観性の担保の部分で、内部だから排除とかというのは、おっしゃるとおり考えていませんので、内部であっても外部であっても、客観的なものに基づいてきちんと判断して有効性としてお示ししたと分かるようにしていきたいという前提でございますので、そのように対応させていただきたいと思えます。</p> <p>3点目のプレッシャーの部分もおっしゃっていただいたように、我々としてもSとかAをつけるということだけではなくて、やはりこのように我々は、今、いろんなところからきちんとしたデータとか客観的な指標に基づいて判断していくことも当然求められておりますので、そちらをお示しした上で議論をしていきたいと考えて、一応このような見直しを考えているところでございますので、ぜひ引き続き御意見を頂戴できると大変ありがたいと思えます。ありがとうございます。</p>
	斉田委員	<p>ちょっと分からなかったのが技術的なところの確認で申し訳ないのですが、5ページの有効性の評価基準で①から③まで挙げていただいていますけれども、9ページを見ると、有効性を単年度ごとに評価していく形になっています。恐らく③という満足度とか納得度は、施策を利用した人が満足したかどうかということなので、単年度ごとにデータを取ることは可能かなと思うのですけれども、①と②の行動変容とか貢献度がどうだったかというのは、単年度ごとに1回とか2回施</p>

	事務局	<p>策を利用しただけでどれだけ行動が変わったかを取っていくというのは、なかなか厳しいところもあるのかなと思うのです。その辺はどのように考えていくのか、教えてください。</p> <p>そこも本当におっしゃっていただいたとおりで、今、事業所管課ともお話をさせていただく中で、やはりアンケートとか調査に関しましても、当然予算的なものもございますし、人力的なものもございますし、対象となるステークホルダーの方にお問い合わせをするのも、毎年度やっていると非常に手間をかけてしまう、御苦勞をかけてしまうところもございますので、隔年実施だったり、3年に1度の実施だったりということは当然あり得るかと思っております。</p> <p>その中で、ただ、貢献度とか利用者・対象者の行動変容というのは、調査に基づく部分とそれ以外のところで何かデータとしてお示しできる、客観的にお測りできる場所があれば、やはり毎年有効性に関する振り返りというのは必要かなと思っております。ただ、おっしゃっていただいたように、技術的なところだと思うんですけども、具体的にどういうふうにやっていくかというのは事業ごとによっても課題感が違うと思いますので、引き続き事業所管課のほうとも相談しながら、対応をしていきたいなと思っております。ありがとうございます。</p>
	石井部会長 稲田委員	<p>よい御指摘で、皆さんすばらしい。ほかにいかがでしょうか。</p> <p>最後にすみません。先ほどの山瀬委員の話がすごくいいなと思っていて、その意味で考えていくと、有効性が丸と空白と米印というのもどうなのかなというのは何か思うところがありました。というのは、有効性が測れないから丸と何もないのと米印だと、丸はすごくすてきな施策で、それがついていないものはちょっとどうなんだみたいな見え方をしてしまうと、でも、本当は丸がつかないような、なかなか有効性は分からないけれども、これは多分必要だよなという施策も将来的なことを考えると大事なはずなのです。だから書き方として、丸なのかなというのが例えば「確認済」とか、そういう書き方でもいいのかもなというのを、先ほどのSABCはどうなのかというのを踏まえて感じたところです。</p>
	事務局	<p>私どもとしては、一応どちらかというプラス評価ということで、特に有効性が高いという前提に立って考えた枠組みではあるんですけども、やはりそういう御指摘をほかのところからもいただいてございますので、見え方として備考欄の記載方法なども工夫をしなきゃいけないと思っておりますし、どういうふうに出していくかというところは、中でも検討をもう少ししたいなと考えてございます。ありがとうございます。</p>
	石井部会長	<p>ありがとうございます。これは結局、一時預かりとかで実績は上が</p>

		<p>っていないんだけど、Cのままにしておけないというので、多分今までC、Aとかというのがあったんだけど、丸がつかないとなるとどうするかというのは結構難しい問題ではあるなと思います。今いろいろ意見が出まして、今度、本会のほうにも出るかと思うので、横のつながりでちょっと整理をしていただく方向性になるかなと思います。よろしくお願ひします。</p> <p>では、これで公開案件のほうは以上になります。</p>
--	--	--